

小樽オルゴール堂本館

- 物件名：小樽オルゴール堂本館
- 住所：住吉町4-1
- 電話：22-1108
- 所有者：株式会社オルゴール堂
(代表取締役 柳田春義)
- 運営者：武田博幸 (取締役営業本部マネージャー)
- 人員：30人
- 建物履歴：
明治45年 共成株式会社 (精米・米穀商)
フジヤ家具センター→ブルーハウス
平成元年 小樽オルゴール堂 小樽市歴史的建造物指定
平成6年 小樽市都市景観賞



外観

■外観

煉瓦造の建物と木骨石造倉庫で構成され、創建時の原形を可能な限り復元。

- ①屋根 銅葺きマンサード補修。
- ②正面玄関 古写真を基に復元。
- ③キーストーンなど
アーチ状窓のキーストーンや開口部と隅部に積んだコーナーストーンが特徴。
- ④3重窓
外部に上げ下げ窓、内部に両開き窓、間に鉄製の引戸を入れるほど、防火に配慮したつくり。
- ⑤石壁補修 木骨石造倉庫の石壁を補修。

■内観

創建時の原形を可能な限り復元。

- ①吹き抜けと回廊
共成の建設時から吹き抜けと回廊が備わっていたというから、共成の力量が実に大きかったことがうかがわれる。
- ②各部屋の天井
各部屋(各コーナー)ごとの天井の造作も見事な意匠がほどこされ、アンティークな環境はオルゴール商品を引き立たせている。
- ③シャンデリア
各コーナーのシャンデリアも全て創建時を復元。
- ④床
1階の床は家具のショールームの際に張り替えた形跡があるが、2階の床は建築当時のまま。
- ⑤階段 階段の手摺りも建築当時のまま。
- ⑥鉄骨補強 倉庫部分の柱と梁を鉄骨で補強

■内容

オルゴールは小樽観光三大土産「硝子」「寿司」「オルゴール」にまで成長した一つで、小樽にオルゴールを初めて取り入れた先駆者。運河散策路が整備された昭和61年を「小樽観光元年」とすれば、「レトロな街小樽」の最大立役者。

■コンセプト

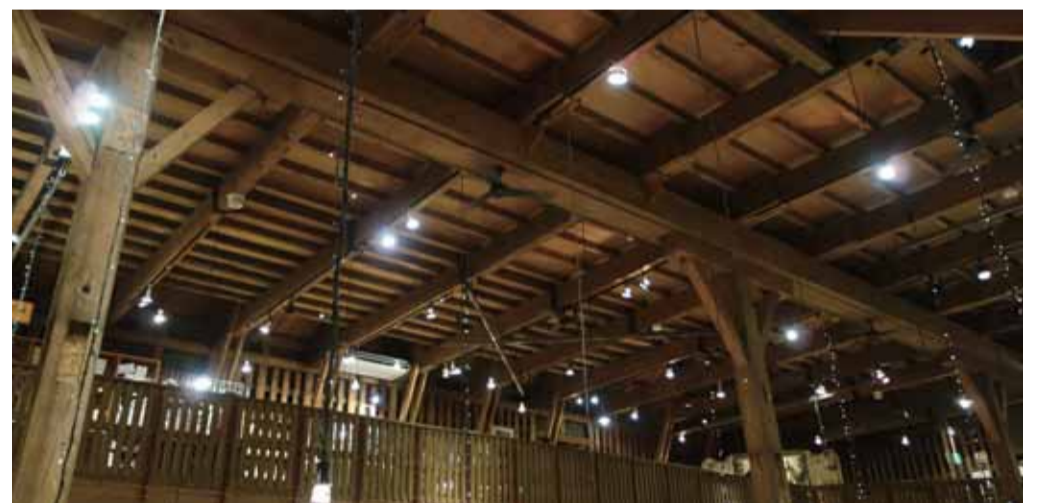
近年増加するアジア客に対応し、台湾人3人、タイ人2人、韓国人2人のスタッフを抱え、いずれも日本人スタッフ同様に接客・案内・アドバイスができるスキル向上を人事管理のモットーとしている。柳田社長自らがアジア各国へ出向き「小樽人気とオルゴール堂」の相乗効果に向けてPR。

■客層

ほぼ観光客で約4割がアジア客。最近ではアジア客の個人客も増加。



倉庫部分の店内



倉庫の天井



武田博幸氏



階段と手摺り

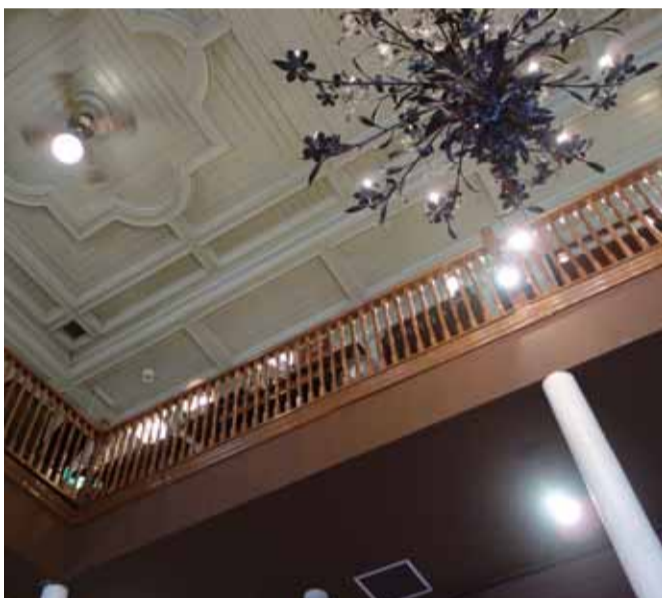
小樽オルゴール堂本館



ファンタジーな回廊と2階



2階の天井飾りと台輪



天井に驚くファンタジー空間



天井装飾



通路の装飾



梁と柱補強



吹き抜けのフロア



部屋ごとに異なる台輪



倉庫への連絡通路



重厚なキーストーン



路地で憩う観光客